

森林（もり）を楽しむ事業

取組に至る背景・事業の目的

- 「伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン」が柱とする市民参加による社会林業都市「ソーシャル・フォレストリー都市」の実現を目指し、ビジョンの推進団体として平成 30 年度に発足。
- 市民が主役となって森林資源を育て、活かし、利用する循環社会を目指す、ビジョンの実現のためには林業関係者だけでなく市民が主体となった取り組みが必要である。
- その第一歩として、森林を活用したイベントを実施し、様々な切り口から市民と森林が関わるきっかけ作りを行い、市民に森林への興味を持ってもらう。
- また、森林保全は二酸化炭素吸収量を増加させ、その資源を活用することで吸収した二酸化炭素を固定でき、木製品やバイオマスの普及によりプラスチック製品の削減にもつながることから、活動を通しビジョンの実現とともに脱炭素社会の実現を目指す。

事業内容

- ミドリナカフェ（森林の魅力体験するイベント）
アロマ制作、DIY 体験（薪置場づくり）、バードウォッチング、森マルシェ（地域の森から生まれた木、板、薪、家具、香り、食べ物などのマーケット開催）
- 森 JOY（人と森をつなげるイベント）
リアル会場とオンラインでの同時開催
 - ・オペラ歌手、ピアニスト、地元高校合唱部によるコンサート
 - ・各種森林関係者によるトーク、仕事紹介
 - ・各種体験コーナー設置
(焚火台、DIY・工作、ハンモック、出張図書館)



【森 JOY 当日の様子】

事業効果

- ミドリナカフェ参加者 約 260 人
 - ・専門家を講師として一歩踏み込んだ森林に関わる体験ができる内容にし、参加者の森林に対する興味と知識を深めるとともに今後の森林整備や利活用に向けた人材育成につながった。
 - ・森マルシェでは約 200 人の方が参加し、製材所や林業事業者、ジビエ料理人など様々な分野の森林・林業関係者が集い、森林・林業関係事業者同士、また市民と関係者が交流し、新たなコミュニティが形成された。また、このコミュニティから森林資源を活用した新たな発想が生まれ、地域の産業振興につながった。
- 森 JOY 参加者 約 1,200 人（内オンライン約 1,000 人）
 - ・イベントを通して森林で過ごす心地よさや森林で遊ぶ楽しさを知ってもらい、森林保全や森林資源に興味を持ってもらった。また、市民が森林について興味を持つことで、脱炭素社会の実現に寄与することが期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

幅広い層の市民にイベントへ参加してもらうため、周知の際に Facebook、インスタグラム等の SNS を活用した他、チラシを作成して市内各施設に配布する等、様々な角度からの宣伝を行った。

令和 3 年度は前年から引き続きコロナ禍であったため、通常は大規模な集客を行う森 JOY は会場を縮小せざるを得なかったが、コンサートや森林・林業関係者による座談会などのコンテンツをオンライン配信し、当日来場できない方もイベントを楽しんでいただけるよう工夫した。

今後はウィズコロナを意識しつつ、多くの市民が森林に親しめるイベントを考えると共に、イベントの場を活かして森林・林業関係者の横のつながりが生まれるような仕組みを実現したい。

【選定のポイント】

市民目線で様々な切り口のイベントを行うことで、森林、住民、森林関係者が交流し、森林を中心とした新たなコミュニティが形成された。また、オンラインを活用する事でコミュニティの広がりを促進し、コミュニティから森林資源を活用した新たな発想が生まれるなど、今後も地域の産業振興や脱炭素社会の実現に向けた取組として発展が期待される。

団体名 伊那市ミドリナ委員会 連絡先 伊那市 50 年の森林推進室 0265-78-4111 https://midorina.jp/	事業タイプ ソフト事業 事業費 3,658,500 円 支援金額 2,784,000 円
---	--